

六田晴洋の

私たちの ご近所さん

トガリ
ネズミ
ラウアー



幻の水中モグラ、
カワネズミ

VOL. 30

この原稿を書いている場所
は鳥取県。8月下旬からカワネズミという動物の撮影にきています。カワネズミはトガリネズミ科の一種で、本州と九州の溪流に生息し、水中を泳いで魚や水生昆虫などを食べて暮らしています。いわば川に住むトガリネズミです。その姿を見るのが難しく「幻の水中モグラ」とも呼ばれています。そのカワネズミを探しながら、神奈川から白糠に移住して以来

5年ぶりに本州の夏を経験しました。

カワネズミ探しの大敵は雨

カワネズミを見つけるためには、痕跡を探すことから始めます。一頭のカワネズミの行動範囲は時に1kmにもなると言われています。川をとにかく歩いて、カワネズミのものと思われる糞や

食べカスなどを地道に探すのです。基本的な探し方はトガリネズミと同じですが、場所が溪流というだけで難易度はぐっと上がります。ゴツゴツした岩、急な流れや深みが入り混じる中を歩くのはなかなか大変です。でも一番の敵は雨。雨粒や川の増水によって痕跡は流され、再び見つかるようになるまで数日待たなければならぬのです。今

期は雨がとて多く、今も大きな雨音とカエルたちの大合唱が、私のため息などお構いなしに響いています。

本州の生き物たちと再会

それでも川を歩けば、久しぶりに夏の本州にきたことで、北海道にはない、もしくは見る機会が少ない生き物たちと出会

えました。それは旧友と再会したような不思議な感覚を覚えるものでした。オニヤンマやトノサマガエル、マムシなど、どれも私が子どもの頃に夢中になった生き物です。残念ながら今はもう持っていない、子どもだけのあの特別な感覚でその生き物と接した経験がどんなに貴重だったかと大人になって思います。未来の子どもたちもそうした体験ができる自然環境であり続けてほしいです。



決まった岩をトイレとして利用するカワネズミ



日本最大のトンボ、オニヤンマの産卵

PROFILE

六田晴洋 ろくたはるひろ

1986年生まれ。
2021年に白糠町へ移住。
大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。

<https://rokutaharuhiro.com>

